

会 議 録

1 会議名

第4回 上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) ホール機能の規模について（公開）
- (2) 公民館機能の内容と規模について（公開）
- (3) 建設候補地の課題整理について（公開）
- (4) その他

3 開催日時

平成24年3月23日（金）午後2時00分から

4 開催場所

上越文化会館4階 大会議室

5 傍聴人の数

3人

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：赤羽孝之、樋口 秀、佐藤由起、田中昭平、甲田佳子、田中弘邦、秋山三枝子、清水 満、渡邊亮太
- ・事務局：小林都市整備部長
都市整備課 奥田課長、阿部副課長、北島係長、松井主任、新保主任
高田地区公民館 大塚館長、佐藤係長

7 発言の内容

(1) 開会（奥田課長）

ただいまより第4回上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会を開催させていただきます。

始めに小林都市整備部長の挨拶を予定しておりましたが、ただいま本会議に出席しておりますので、終了後こちらへ来ることになっております。会議の終わりの方で小林都市整備部長の挨拶を行いたいと思います。

本日の会議につきましては次第に沿って進めてまいりたいと思います。なお、本日の委員の出席状況につきましては、委員総数10名のうち熊田委員は都合により欠席、また秋山委員と田中弘邦委員は遅れておりますが出席予定でございます。したがって現在7名の委員が出席されております。

したがいまして上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会設置要綱第6条第2項の規定により、会議は成立しておりますことをご報告致します。それでは、赤羽委員長からご挨拶をお願い致します。

(2) 委員長挨拶（赤羽委員長）

今回は4回目の委員会であります。厚生産業会館のイメージも我々の頭の中でかなり出来上がってきたのだと思います。3月に入りまして本町の商店街、駅前通りの商店街から嘆願書が市長に出されたということがございます。この施設への市民の注目が集まっているということだと思えます。したがいまして、3回目の挨拶でも申し上げましたように、我々は個人的な価値観や好み、主観的な思いで考えるのではなく、我々の背後には多くの市民の視線、ニーズがあることを自覚していただいて、客観的データにもとづいて、科学的、理詰めプロセスを踏んで、もちろん、類似施設の視察結果も踏まえて、その規模や機能、場所といった大事なところを議論していただきたいと思えます。それではよろしくお願い致します。

（奥田課長）

ありがとうございました。それではここで資料の確認をさせていただきたいと思えます。始めに、事前に送付いたしました、資料1-ホール機能の規模について、資料2-公民館機能の内容と規模について、資料2-付属資料、資料3-建設候補地の課題整理について、それから受付でお渡ししました席次表、お席にご用意させていただきましたパワーポイントの資料と資料3-追加資料をお配りしてございます。ご確認をお願いします。資料3追加資料ですが、前回、有力な候補地として絞り込んでいただいた3候補地について詳細な検討を行ったところ、公民館とソフトボール球場において課題が多く出てまいりましたので、この2つのブロックの候補地について2か所、参考資料として準備させていただきました。不足等がございましたらお知らせください。

それでは、議事に入ります前に先般市長あてに嘆願書が提出されましたのでその内容をご説明させていただきます。嘆願書は本町3.4.5丁目の商店街振興組合、高田駅振興会、高田駅前通り雁木の会、高田本町まちづくり株式会社、株式会社イレブンビル、高田まちづくり株式会社の皆様方からの連名で3月2日に頂戴しました。主な内容ですが、今回の（仮称）厚生産業会館の建設場所をJR高田駅前をお願いしたいという内容でございます。嘆願書にはこの効果としまして、1.浄興寺裏寺町駐車場の有効利用ができること、2.在来線からの乗り込みが可能な施設として現在の信越本線を有効に利用できること、3.イベントなどの終了後には街に人が出向き、周辺施設に経済効果がもたらすことができるということ、などが挙げられるとしております。以上、委員の皆さまに報告いたします。

これより議事に入らせていただきます。上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会設置要綱第6条により、委員長が議長を務めることとなっておりますので、議事の進行は赤羽委員長をお願い致します。委員長よろしくお願い致します。

(3) 議事（赤羽委員長）

それでは次第に従って議事を進めていきたいと思えます。

先日、市内の類似施設を委員の皆様より見ていただき、今回の施設のイメージを概ね掴めたかと思えます。この4回目の会議でも積極的なご議論をお願いしたいと思っておりますので議事の進行にご協力をお願いします。

先回の委員会では、ホールの利用目的はコンサートや音楽会等の発表会、会議や講演会、社交ダンス等の軽運動、展示会や販売会、限られたスペースでの利用で、プロレス、ボクシング等の興行系を想定することとし、バレーボール、バスケットボール等の運動系は想定しない。座席は収納式とし、平土間としての利用が可能な多目的ホールとするということがまとめとしてありました。そして規模は可動椅子で500席程度とし、プラスアルファ的に持ち運び可能な椅子が100～200席程度を設けるとするイメージを確認したかと思えます。公民館部分では高田地区にも公民館機能と同等の機能をもつ公共施設が存在していることから、これらの稼働状況を調査して公民館の内容や規模を決めていきたいということだったかと思えます。そして、子育て施設としては一時預かり施設ではなく、長岡市にあるようになってく、ぐんぐんのような施設も検討するべきではないかとの意見も出されていたかと思えます。建設候補地については、7候補地から地区別グループ分けを行って、概ね3候補地に絞り込んできたところであり、以上が前回までの内容であったかと思えますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

では、それを踏まえて質問していただければと思います。今回もこれまでと同じようにこの会議の目標を委員の皆さまと共有しておきたいと思えます。私のほうからの提案ですが、今回の会議の目標は3点と考えております。1つ目は、ホール規模について、多目的ホールの座席数と平土間の規模、大きさについて十分な議論をお願いしたい。今回、第4回目で意見を集約したいと思えます。2つ目は、公民館機能の内容と規模についてです。今回、新たに調査された内容から公民館施設としての内容や規模について、今日意見を集約したいと思っております。3つ目は、建設場所の課題整理についてです。先回の会議で概ね3か所に絞り込んできましたが、今回はこの候補地について想定される課題を十分に議論していただいて、建設場所につきましては第5回目の会議に候補地についての意見をまとめたいと思えます。この3点を本日の目標としたいと思えます。皆さんよろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

ありがとうございます。そのような形で進めていきたいと思えますのでよろしくお願ひします。それではまず始めにホール機能の規模についてであります。事務局より説明をお願いします。

(事務局 松井主任)

資料1-ホール機能の規模について簡単に説明します。スクリーンをご覧ください。まずホール規模でございます。委員長のご挨拶にもありましたとおり、席数につきましては移動観覧席で500席程度、移動椅子席ということで100~200席程度、最大でも600~700席程度のホール規模がよろしいのではないかとということでお話をしてきました。お配りをしました図面の見方を、こちらはBパターンになります。参考に見ていただければと思います。まず、移動席の部分でございますが500席程度です。移動の椅子席100~200席程度、平土間につきましては平土間形式ということで真ん中から下段にお示しをさせていただいております。今回お示しをさせていただきました5パターンの面積は400~500㎡程度、平土間全面に持ち運び椅子を設置したところで530~730席程度、スクール形式、長机に3名ずつ座った状態での席数でございますが200~300席程度という形のパターンを5パターン作成させていただきました。参考に図面で説明をさせていただきます。まず平土間と言われる場所でございます。舞台を除いたピンク色の部分になります。続いて舞台の広さでございます。今回お示しをさせていただいている舞台の広さにつきましては全て200㎡程度で作図しております。こちらの200㎡程度というのは、先般からご説明させていただいておりますとおり、全国の類似事例等を参考に200㎡程度で作図させていただいております。平土間としてどういった使い方をしているかというところでございますが、コンサート形式であったり会議形式、あるいは展示会の形式であったり、興行系の形式、社交ダンス等の軽運動形式、あるいは販売会の形式、といった様な話し合いがされてきたかと思っております。ここで課題を少し整理していきませんが、まずホール形式の課題として考えられるポイントをいくつかにまとめました。まず1点目です。ホールの空席を目立ちにくくしたいといったご意見があったかと思っております。2点目です。移動椅子席設置手間を省きたいといったところであったかと思っております。それから3点目、1席あたりの余裕が欲しいといった点があったかと思っております。平土間形式ではどんな部分であったかと言いますと、まず1番目ですが、ダンスの競技を例に挙げさせていただきましたが、競技をすることは可能ですが、観客の皆さんの席や審査員席を設けられないのではないかとということが考えられました。2番目です。展示会や興行系の形式としては今回のパターンでも狭いのではないかと。今回、5パターンを示させていただきましたが前回までのご意見にもっとも近い案というのは、事務局としてはD案ではないかと言ったところでお示しをさせていただきます。こちらの図面がD案の図面でございます。皆様方と確認をさせていただきますが、まず、収納が可能な移動観覧席でございますが500席程度、固定席200席程度でございますが、これは、先ほど申し上げましたプラスアルファの部分でございます。こちらの図面では2階席となります。合計で700席程度が設けられるのではないかと。平土間の面積です。舞台を除いた平土間の部分となりますが約400㎡程度、舞台の面積としては200㎡程度といった案になります。これを具体的に写真としてイメージさせていただきました。2階席がコの字型に設置をしてあるイメージ写真でございます。D案を市内の施設と比較して見てみます。文化会館の大ホールを見ますとこのような形になります。リージョンプラザコンサートホールとの比較であります。奥行きは少し狭くなりますが、幅が少しゆとりが取れるのかなといったイメージとなります。最後にくびき

希望館多目的ホールと比較した図面になります。以上 5 パターンについて見方を説明させていただきました。表の一番下にはその案のメリット、デメリットを示してございます。ご議論の参考としていただければと思います。説明は以上になります。

(赤羽委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見ご質問ありましたらお願い致します。いかがでしょうか。資料としては、ホール機能の規模について資料 1 でございます。5 つのパターンが示されておりますが、考えていく案に近いものとして D がありました。今ほどの説明など参考に多目的ホールの座席数についてのプラスアルファの考え方や平土間とした時の面積につきまして議論していただきますが、今回、欠席している熊田委員から事前に意見をいただいております。皆様にご報告いただきたいという依頼がありましたので、事務局から報告をお願い致します。

(事務局 松井主任)

熊田委員の方から、私どもの方にご意見をいただいております。熊田委員のご意見としましては、今回お示しをさせていただきました A 又は B で良いのではないかというご意見をいただきました。具体的には、今回、お示しをさせていただいた 5 案を否定するものではないですが、興行系をひとつとった時に 400~500 m²程度では少し狭いのではないかというような意見でございます。欲を言えば、平面積で 600 m²程度があれば良いのではないかということと、また、舞台の昇降装置があれば良いのかなというような意見をいただいております。興行系のみを考えますと、舞台にパイプ椅子を並べまして、そこを観客席として利用することもできますので、こういった使い方も可能なのかなということで熊田委員のなかではご参考にされているということでございます。それから興行系ということでございましたので、熊田委員からは参考にさせていただきたいということで、リングの大きさとうところで 6m 真四角のものが入ってきますよということをご参考に伺いました。最後に委員の方からは、今までは、席数から平土間の面積をお考えになるような会議だったのですが、平土間の面積として本当にどのくらい必要なかというような、平土間の面積から逆に席数を考える、あるいはゆとりをもった席数にしていくようなお話も少しできればなというようなご意見をいただいております。以上でございます。

(赤羽委員長)

今の説明が熊田委員からのご意見であります。このホール機能ですね、平土間の大きさ、席数ですね、いかがでしょうか。

(樋口委員)

樋口です。よろしくお願ひ致します。今ほど熊田委員のほうから平土間の利用についてお話があったのですが、このホールにつきましては、先ほど委員長の方からお話がありましたが、多目的な利用だと確認されました。利用とすると平土間での利用と、席を出した時の利用というのは、どうなのでしょう、最初のところに議論した 500 席、市民の要望から 700~800 席というような話がありましたが、市民の皆さまの利用状況はどちらのほうが

多いでしょうか。少しお話しいただければと思うのですが。

(赤羽委員長)

やはり観覧席を出したものが多いと思いますが。興行系というのは特別な使い方としてこういうこともありうるということでした。

(樋口委員)

分かりました。事務局の方で話のありました舞台の一部を下げる、全部を下げることはかなり大掛かりなことかもしれませんが、前方の部分が一部でも下がれば段差が若干解消されますので、その部分を興行をした時に平土間の一部として使えるとなると、舞台の 200 m²を含めると、熊田委員の意見の 600 m²になりますので可能ではないかなと思いました。私の意見とすると事務局からの提案のあった D 案というのは当初 500 席が非常に有効利用される規模ではないかという点、それと市民の皆さんから 700～800 席というご希望があったという両方を叶えつつ非常に有効利用される可能性のあるパターンかなと思いました。

(赤羽委員長)

ではこの中では、どのパターンがよろしいですか。

(樋口委員)

私も事務局提案の D 案がよろしいのではないかと思います。

(赤羽委員長)

ありがとうございます。ただいまの説明にもありましたように、この舞台の一部を下げる。そこに段差ができる。熊田委員の意見にもありましたように、そこに移動の椅子を並べてそちらからも観客が座っていただけて見るということにすると、少しはアリーナ形式になるわけですね。興行系の場合にはその方が良いように思いますね。そのような使い方もできるという訳ですね。2 階席の案が 3 つ並んでいます、2 階の部分は基本固定席である。そこでプラスアルファで 200 席ほど作っているということですね。移動観覧席、可動部分は 500 席位ですね。2 階の部分を作ったことによって観客数が少なかった場合の空席間がなくなるのではないかとということでもありますね。他にご意見いかがでしょうか。清水委員どうぞ。

(清水委員)

清水です。D 案は非常に良い案だと思います。合計で 707 席、理屈的にはステージの部分が下にフラットな状態で沈み込むような形で具体的に建設できるのかという部分で、この辺どうなのでしょう。

(赤羽委員長)

200 m²これ全体を上げ下げする装置は大変なことになりますね。ですから一部だと思

ますね。そこに段差ができる、そこをまた席に使える、というようなことですね。

(清水委員)

客席を作ってその上に椅子を載せるとなると荷重が掛かる訳で、全体を下げて、例えば6m真四角のリングを真ん中に置いてプロレスの興行をやるといった場合に、例えばD案のところで興行を行ったりする場合に、ちょっと無理があるような気はします。もちろん建設コストも考えてしまいますので、その辺ところで、せりの部分も必要だと思いますので、ほんのステージの広さとしたら、1/10とか1/5とかそういったものが上下したりすることは可能だと思いますが、その部分に平土間の椅子席を作るというのは具体的ではないような気もします。どうでしょうか。

(赤羽委員長)

事務局は何かありますか。

(事務局 松井主任)

清水委員が言われるとおり、前面舞台を上下するというのは、私どもも再度確認をさせていただきたいところですが、例えば左右に分けた場合に客席側から半分を階段状に下げるとか、真ん中の席の部分だけを少し下げることが可能だということは伺っております。以上です。

(赤羽委員長)

ありがとうございます。それと清水委員が言われましたが、2階席を作って多少コンパクトにするという形ですが、それにより建設コストが安くなるとかという、そうは安くはないようですね。2階席を作って大きさを縮めても2階席部分でやはりコストが掛かるということでもあります。そうですね。

(事務局 松井主任)

はい、そうです。

(赤羽委員長)

2階席を作ることによってプラスアルファの200席程を確保するということでもあります。この部分があることによって文化会館のような空席感をなくすということですね。例えば400人しか集まらなかった時に、後ろにガランとした空間ができてしまうのです。その空席感を無くすということでもあります。他にご意見ありますか。

(渡邊委員)

渡邊です。視察に行った時のリージョンのところの車椅子席のことですが、希望館の可動席の時も思ったことですが、可動席にすると途中に出入口が作れないというようなこともあって、前だけから出入りする形になりますね。あと車椅子の方の席はどのようになるのでしょうか。

(事務局 松井主任)

車椅子席が一席当たりどの位必要になるのかというご質問もあるのですが、調べてみますと概ね 1m以上ないと車椅子が方向転換できないと言われているようでございます。それで、例えばこの席でございますが、2階席が階段状になっていますが、2階席の階段状のワンステージを車椅子席に使用する、というような考え方もできるかと思えます。それから全面が階段状で移動席になった場合、途中からの出入りが厳しいのではないかというご質問ですが、くびき希望館ですとそういったケースもありました。ですが、現在は全面に平らな部分を設けることによって途中からの出入りも少しできるのではないかということをお伺っております。

(渡邊委員)

2階席を使って、車椅子の方を2階席に案内するとなると、下の方に若干空席がでたりします。2階席を見えないようにして空席感をなくした場合、下の方は車椅子の人が一人でも入ったらどうでしょうか。

(事務局 奥田課長)

今ほどの車椅子の方の席についての質問ですが、車椅子の方の席をどうするかというのは大事なことだと思っておりますが、今まだこの段階では、そこまでの議論はまだ難しいかと思っております。やはり車椅子の方の席を考えるのであればやはり出入りのしやすい場所とか、そういうことでこの場所で良いのか、このプランで行こうとなった段階で基本設計で具体的に詰めて行きたいと考えております。当然その辺も十分考えて行こうと思っております。可動席の部分もできるという話もございますので、その辺は、今後一つのタイプを決めていただいて、そして基本設計に入っていく段階で、車椅子についてどういう形にしたら良いのか十分考えて行きたいと思っております。

(赤羽委員長)

はい。よろしいでしょうか。

(渡邊委員)

はい。

(赤羽委員長)

今後詰めて行く中でということですね。2階席は固定席ですね、したがって、そこはバラエティーに富んだ使い方ができるようです。例えば赤ちゃんを連れた方、声が外に漏れないように部屋を作るとかですね、いろいろなオプションが考えられるということですね。この他ご意見いかがでしょうか。

(甲田委員)

私もD案のほうが、いろいろ今まで話し合ってきた中で一番適しているかなとすごく感

じました。それで先ほどの興行のお話が出た時に、舞台の半分が平土間と同じ高さにできるということでしたが、舞台上にそういった上下するものができるのと、床の微妙な高さができるのと、私達バレエをやるものとしては踊ったり動いたりする時に、文化会館も真ん中にせり出す部分がありますが、それが影響ないと言えば嘘になりますが、影響、支障が多少あります。舞台としては、やはり全部沈むか、全く沈まない一枚のものかどちらかでないとダンスや舞台上で動く者については、その方が利用しやすいのではないのかなと、動くことをしている者の意見としてはその方が良いかなと思います。先ほど言ったように舞台が動くとなるとコストの部分もあると思いますし、またここで興行のものが一年間にどの位行われるかということを見ると、ホールとして使われる方が一年間でおそらく多いと思いますので、そこでコストを掛けるよりも別の方でお金をかけた方が良いのではないかという意見です。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。では、他にご意見ありますか。

(秋山副委員長)

私も、D案かE案かなと思っていたのです。この2つを比較して、気になるのが高さですが、現地を見させていただいて舞台の機能をどこまで作るのかなということ、高さがあるかと思しますので、今の事務方のイメージとして、舞台機能を、例えば希望館とリージョンでは全然違うので答えにくいかもしれませんが、逆に私たちがどこを求めるかということなのかもしれませんが、かなり充実した舞台機能にするのか、ある程度コストを下げて作るのかというあたりを教えていただければと思います。

(赤羽委員長)

事務局お願いします。

(事務局 奥田課長)

事務方のイメージとしては、リージョンのコンサートホールのイメージです。音楽系のイメージです。それに耐えられる、そういった使い方ができるステージです。

(赤羽委員長)

5つのスタイルですが、左側は熊田委員は興行系を考えるなら面積が大きいですね。全員入らなかった場合、後ろのほうに空席感が現れやすいですね。B案は、観覧席とステージとの間に空間が広く空いてしまうということですね。コンサートや演劇の場合には、ちょっとマイナスだということですよ。観覧席がステージの方まで伸びた方が良いということでしたよね。そういうマイナス面があるということですよ。そういうことで委員の皆さんはD案が良いのではないかということですが。C案は2階席がせり出してきており、一部に天井の低い部分が出てくるということです。D案は、観覧席の傾斜がそのまま2階の固定席まで続くということですよ。そして2階席がコの字形に囲んでいて、何かオペラみたいな形ですね。写真で見るとちょっと洒落た感じですね。他にご意見があればお願

いします。

(甲田委員)

先ほど、D案のところで2階席がコの字型になっていると、例えば小さいお子さんを連れて見に来た場合、可動席の場合、前からしか出入りが出来ないお話でしたが、たまたまお子さんが機嫌が悪くなり出なければならなくなった場合に、一番良い席にいとそこから出にくいということがあり、上に2階席というのがあると、そこは後ろから出入りするようになると思いますが、そういう席があると、いざという時に、周りに迷惑を掛けずに出入りするということを考えると、こういった2階席は絶対的にあった方がホールの機能としても、お子さんがいて行けないわ、という方も利用できるのではないかと思うので、ぜひあった方が良いのかなと思います。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。ほぼ皆さんの意見は同じ方向に向いていると思いますので、そろそろ集約したいと思います。この委員会では多目的ホールの座席数を500席プラスアルファということですが、プラスアルファをこの資料では200席程度で、500席程度は移動観覧席の可動式とし、プラスアルファの200席程度を固定席2階席でコの字型とすることですね。平土間の面積は、2階席を作った場合400㎡になりますが、この400㎡程度でよろしいでしょうか。

(清水委員長)

熊田委員が来られていないので、その興行の部分で多分折衷案みたいな形になりますが、このD案のような面積と形で行くとなると、できればA、B案と言われたみたいな形でもうちょっと検討していただけるのかなと思います。

(事務局 松井主任)

今回お示しをさせていただきました図面は、ごく標準的な配置をパターン化しております。皆様方のご希望の中にも1席あたりのゆとりが欲しいとの意見も出ておりました。熊田委員の平土間の面積といった部分を踏まえ、現在の配置パターンからさらに検討を重ねさせていただくことで、400㎡以上どこまで設けることが出来るかちょっと分かりませんが、なるべく広い面積をとってあげるというような考え方ですので、よろしく願い致します。

(田中昭平委員)

行政の基本的な考えをお聞きしたいのですが、客席の事ばかりに捕らわれているようですが、この5つの案のどこに決まっても、市の行政、市政の一環として、市の財政的な裏付けとして可能になるのかどうか。なんでもこれが良いということばかり言って全てを良い設備にしても、やはり予算の見通しとか財政がどうなのか、従って、この大ホールも細かく分析してみるとこの程度になります、と行政もはっきり言えば良いのですね。どうでしょうか。この5つの案のどこに決まってもまず可能かどうか。市の財政から言って、

皆さんが懸命に意見を集約したのだから、大体出来るだろうという見通しはどうでしょうか。

(赤羽委員長)

財政の裏付けですね。可能性があるのかどうなのかということですよ。事務局お願いいたします。

(事務局 奥田課長)

お答えします。A～Eの5パターンになっていますが、委員の皆さんでこのパターンということで、まとまって行くということで、市の方としては最終的には基本構想ということで決めるということになります。基本的にはどのパターンでも行政としては対応して行くということでございます。

(田中昭平委員)

ありがとうございました。

(赤羽委員長)

ということでよろしいでしょうか。

部屋の大きさはなるべく400㎡で、もう少し努力するということでもあります。

(秋山副委員長)

事務局のお話でちょっと気になったことは、私達のこの場の検討が尊重されるということであると、私達も今の上越市の財政状況も考えたら、コストのこともかなり意識を向けながら考えて行かなければいけないかなと思ったのです。そこにあまり重しを置いたことを考えずにこの高さや機能だとか、データコストの中でそこまで気にする割合でないのか、それともやはり気にした方が良いのかというのがちょっと分からないです。先ほど、高さで気になったのもその辺の部分だったのです。

(事務局 小林都市整備部長)

基本的にどのパターンを取っても、金額はまだ出していませんが、変わっても1割とかその程度の世界です。全体的な費用、ここだけの話ではなくて、施設も含めて詳細な設計を進める中で全体的な費用も出てくると思います。当然良い設備を備えれば良い物はできますが、当然費用も掛かる訳ですが、どこまで市は対応するのかということです。また、それは市としても最終的な設備を含めた中での判断をせざるを得ないと思いますが、今、基本的な骨格になる部分を検討していただいている訳で、そこが基本構想として検討委員会でまとめていただいて、それを受けて市として、また市民の意見を聞いていく中で、最終的に市の基本構想をまとめていきたいという、そういう形になろうかと思います。財政的な部分を全く無視して検討していただきたいという訳ではないのですが、そこは当然、市として最終的な判断をさせていただくことはあると思います。この部分については骨格になる部分ですのできちんとご議論いただいて、必要な部分は除いて、利用者の利便性と

いう観点で検討していただければと思います。

(赤羽委員長)

私も以前にそういった基本的な不安はあったのですが、かなりの実現性があるのだということでもあります。財政的には県や国の支援を受けて行くことになると思います。ではその多目的ホールの座席数や平土間の面積についてはよろしいでしょうか。次回の会議には、今回の意向に沿った平面プラン図をより詳しく事務局より提示していただくことにしたいと思います。よろしいでしょうか。

(事務局)

はい。

(赤羽委員長)

それでは次回までにプラン図をよろしく願いいたします。続きまして2点目、公民館機能と規模について事務局より説明をお願い致します。

(事務局 大塚公民館長)

公民館でございます。よろしくお願い致します。

始めに、前回この会議で説明させていただいた内容でございますが、女性サポートセンターと公民館が、今現在はこの2つの施設が一体になった形で、公民館活動あるいは貸し館等実施しているということで、それをご利用いただいた団体さんの状況を考えて皆様に支障が無いようにということを念頭において説明させていただきます。それで現在の高田公民館の部屋数は8部屋、女性サポートセンターの7部屋を合わせて15部屋でございます。面積は935㎡で、前回想定したものは、これを現在の利用状況を勘案する中で、1部屋減らした中で、ただし、面積的にはロビー等そういうものが必要ということで、980㎡ということでご説明をさせていただきました。それで、今回は前回もお話したように周辺の類似施設、それとホールとの合築ということで、方向性を出していただいた訳ですが、当然ホール施設と重複する部分についても調整を図る必要があるということの説明し、今回、検討してまいりました。周辺施設の関係でございますが、1番のワークパルから9番の福祉交流プラザ、近隣と思われる周辺の利用状況を調査する中で検討をしてまいりました。皆さまにはそれぞれの施設の利用状況をお示しした資料については配布させていただいております。皆様にお渡しした資料でございますが、施設の利用状況を午前、午後、夜間の一日を3つの時間帯に分類いたしまして、それぞれの利用状況を例としてお示し致しました。なお、データの的には平成22年4月～24年1月までの間のデータで稼働率を算出しております。修正案でございますが、前回想定したもの、今回想定したものをご説明いたしますが、その修正要素というのは周辺の類似施設、ホールと合築ということでホール部分と重複する機能です。それと、これから建設を進めて行くところでございますが、本町5丁目の公益施設、長崎屋の跡地に進めている施設の施設内容についても、公民館と当然調整を図るということで考えてまいりました。それで先ほどのお話に戻りますが、現在の部屋数は15部屋の935㎡でございます。それで、そこは体操や社交ダンス、レクダンス、

合唱等々に利用しておりますし、8 部屋の研修室を 4 部屋に整理ということで考えております。その結果、先回は 14 部屋の 980 m²をお示ししました。今回は先ほどもお話ししました周辺類似施設を考慮し、想定しましたのは 11 部屋～12 部屋、広さにつきましては 600 m²～830 m²ということでございます。例えば軽運動室は 2 部屋を想定しておりましたが、本町 5 丁目公益施設多目的室でございますが、これは私どもが考えておりました軽運動室と内容が重複しておりますし、それに対し当然調整を図る必要があると考えております。音楽室については、2 部屋を前回想定した訳でございますが、ホール部分にもリハーサル室や練習室がございますので、音楽室的な部屋の要素でございますので、この辺も重複すると考えまして音楽室的な部屋も 1 部屋少なくとも良いのではないかと考えてございます。3 番目の調理実習室ということで、周辺の調理実習室の稼働率等も見る中では、調整が可能というような利用率でございます。ただ、公民館機能として調理実習室が無くても良いのかということもございまして、この辺については、今少し検討を加える中で今後議論をさせていただきたいと考えております。今のお話のそれぞれの部屋の中で、先回は 14 部屋でということで重複する部分、調整する部分が残っておりますので、本日は 11 部屋から 12 部屋で、600～830 m²のなかで計画を進めるということでご提案させていただいて、皆さんのアイデアをいただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。資料 2 でございます。大事な部分は資料 2-4 です。前回想定したものの 14 室 980 m²、今回想定したものは 11～12 室 600～830 m²であります。まず前回から部屋数と面積から言いますと周辺の類似施設の稼働率、そして本町 5 丁目の公益施設に、ここに類似のスペースあるということです。もう 1 つはホールと合築するわけでホールの合築の効果やメリットで、ホールの練習室を兼ねることが可能なスペースがあるということであり、その関係でご意見伺いたいと思っております。

(秋山副委員長)

ありがとうございます。調理実習室を今回の所でそれほど利用は無いということで調理室の資料を見させていただくと、謙信交流館の 47 m²で、女性サポートセンター 70 m²、謙信交流館の 47 m²で整備できる調理室の調理台はどの位なのか。謙信交流館で調理室があるというイメージはなかったのですが、あったのですね。ここは人気が高く良く使われることも聞いていたので、その辺どうでしょうか。

(事務局 大塚公民館長)

場所にもよると思っておりますが、稼働率が高い調理室というのは設備が新しく、そういうことを感じております。それと福祉交流プラザもそこそこ新しい施設ですが、施設の方も言われていたが、調理室があるということを知らないとようなお話もお聞きしました。私どもの女性サポートセンターの調理室においても、料理教室を開けばたくさん来ていただいておりますが、やはり皆さんがお使いになる事はちょっと少ないということでございます。それと調理実習室については、先ほどお話ししましたように、公民館施設として無くても良いのかどうかということで、今回ご提案させていただいている 11～12 部屋というの

は、調理室が公民館で必要が無いのであれば 11 部屋になりますし、もう少し精査させていただく中で必要ということになると 12 部屋になるということで、11～12 部屋というのは、調理室を作るか作らないかということで、今日はシャキッとした形ではないですが、その辺も含みをもたせていただきたいと思います。

(秋山副委員長)

ありがとうございます。私も女性サポートセンターの調理室は何度か利用させていただきましたが、やはり施設、備品がすごく古いので、そこも原因かなというように思いました。あと、まるで無しにするとホール機能も設けた中で、人が集まる場所は調理室を借りて何かをする方が案外多いのですから、公民館と合わせてホールの利用の中でも、調理室まで行かなくても調理機能ができるスペースがあれば喜ばれるかなと思いました。

(赤羽委員長)

他にご意見ご質問お願いします。

(田中昭平委員)

質問ですが、上越市の公民館というのは全体の事務局はどこにあるのでしょうか。

(事務局 大塚公民館長)

高田地区公民館にあります。

(田中昭平委員)

新潟県で一番先に公民館ができたのは、昭和 39 年旧青海町の田沢公民館です。私は、昭和 38 年全国視聴覚研究会で、私は初めてスライドで全国みなさんに発表したことがあります。社会教育の実施機関として、せっかく素晴らしい施設ができるのですから、やはり上越の公民館の中心的な機能をこの機会に断固として確立してもらいたいですね。それが、上中下越の公民館の社会教育のバランスを並行に保つということになる。私も社会教育を 50 年もやっています、今がチャンスだと思うのです。やはり、この研修室も視聴覚機能を充実したものとして欲しい。また、市民の地域コミュニティーをどうやって作りあげていくか、こういったようなものが公民館の重要な使命の 1 つだと思います。ですから、せっかくお金掛けて新しい物ができたけど、なんら変りないということであっては、市の財政を投資されてもきつい目で市民に見られる。上越市の街づくり、地域コミュニティーが市民の教育レベルが上がってくるとなってきた、そんな面で 1 つの部屋だけ作るということではなくて、部屋が即市民の教育の場であるということで機能面について、もっと努力していただきたいと思います。貸し館と言うようなもので、きゅうきゅうとしていると言うような事で終わらないようにして欲しい。

(事務局 大塚公民館長)

ありがとうございました。今頂いたご意見、肝に命じてやってまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

(樋口委員)

今の田中委員のご意見に賛同致します。合わせてですが、合築の効果が出ていて面積が減らされた、若しくは類似施設の競合を考えられて減らされたということですが、最後に含みを持たせておられましたので、それについてのご意見ですが、このままだと単なる移築にしかならないということもございまして、高田公民館を利用されている方々が、場所を動かして利用されるというイメージを持ちます。できたら新しい物ができて新しい物が入る訳ですから、新しい利用者をどんどん取り込むような方向も考えていただきたいと思うのです。金沢に21世紀美術館あり、ここは無料ゾーンと有料ゾーンが分けられております。無料ゾーンは一般の方が誰でも簡単に入って来られる。そうしますと市民の活動が広がり一日何万人と入ってくる。有料ゾーンは多少限られた人になりますが。この公民館も新しくできる訳ですから、新規の利用者が気軽に入って行けて、いろいろな情報に触れられる。そういったスペースが設けられるようでしたら、ぜひ設けていただきたいと思いません。それで、その人達が公民館でどのような活動をしているのか体験できる。常時、新しい利用者として新しい公民館に入っていかれる機会が出来ますと相乗効果になると思いませんし、合築であるホールの利用者が公民館活動に触れられると思いませんので、ぜひその面、含みを持たせていただけたらと思います。

(赤羽委員長)

ありがとうございます。他にご意見ありますでしょうか。資料2のように現在の部屋数から想定したものです。我々としては現在のニーズと言いますか、現在の高田公民館の利用を基準にして考えざるを得ない面もありますが、先ほども言われましたようにせっかく作る物ですから、やはり、21世紀社会、生涯学習に対応した新しい理念、コンセプト、それを盛り込んで行かなければならないと思えますね。現在のニーズを把握した上で、さらに将来にニーズを取り込んで少子高齢化社会に対応したその拠点としての公民館、21世紀の公民館を目指していった方が良いということですね。他にご意見頂きたいと思えますが、いかがでしょうか。

(清水委員)

社会教育の根源である部分の公民館という活動拠点というのは、青少年の育成だけではなくて、市民の皆さんの一般の心のよりどころではないかと思えます。私、体育関係の団体のスポーツ少年団の日本サッカースポーツ少年団に加盟して、もう40年も経験していますが、スポーツの関係も公民館活動の関係も時代の流れの中でいろいろ変遷を続けてまいりました。いろいろなニーズは喚起されて、細分化されてきているので、活動の拠点というのは市民プラザ等含めていろいろあるので、その中で差別化を図っていかないといけないのかなと思えます。もう一度市民の人達に帰ってきてもらえるような魅力ある拠点作りが大事なのかなという感じがします。いろいろな団体やNPO等含めて、その事務局が気軽に席を置けるような、また一般の人達が気軽に来れるようなコミュニティーを作っていくべきだなと思えます。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。先ほどの意見にもありましたが、高齢化社会で年寄りが増えている訳ですが、生涯学習の陶芸、絵画、盆栽、生け花等、そういった活動を通じて、高齢者の生きがいと言いますか、それに繋がって行く。そういった作品を展示したり、仲間うちの発表会も出来る小さな舞台も必要になってくるのではないかなと思います。他にご意見いかがでしょうか。

(田中昭平委員)

厚生産業会館ができて利用するのは大人ばかり。一番大事なのは子供達、青少年なのです。子供達が自由に出入り出来るような機会を作って欲しい。特に公民館が窓口になって。学校が公民館を利用しない。リージョンプラザもあったのですが、音楽の練習は、こんなに良い施設があったと言って中学校の生徒が利用した。その際に教育委員会が多くのバス賃を出していた。ところが教育委員会も万歳した途端に無くなってしまいました。いずれにしても、地域性が大きいですから近郊の子供達も利用する総合的な活用ができ、厚生産業会館の施設を有効に活用するよう、上越市全体の市民の拠点的な機能を果たすような形に多角的な運営をして行ったら良いなと思います。また利用する場合の要件や駐車場等いろいろ細かいことが出てくるとは思いますが、ぜひとも厚生産業会館は歴史的に注目される施設になると思います。非常にこの21世紀に期待される施設になると思います。よろしく願います。

(赤羽委員長)

他にご意見ありますか。よろしいですか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

それでは、公民館施設の内容と規模について現在のニーズのあり方を基準にして考えるしかないですが、この資料2-4に示されているような11室から12室程度、そして600～830㎡程度の規模の物であるということによろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

今回の会議には、今回の意向に沿って平面プランと図面をホール部分と合わせてより詳しく事務局より提示していただきたいと思います。次回には具体的な図面が出てくることになります。それでは続きまして3点目ですが、ここで休憩を取りたいと思います。3時30分から開始いたします。

(赤羽委員長)

それでは、建設候補地の課題整理ということで事務局より説明をお願い致します。

(事務局 松井主任)

建設候補地の課題整理ということで、お手元の資料では資料 3、本日配りました追加資料合わせてご説明をさせていただきます。

まず、建設場所の整理ということで A4 の横長の表が出てまいります。こちらの表の見方を簡単に説明させていただきます。まず表の一番上ですが候補地の位置図、それから括弧書きで面積が入っております。今回はより詳しく候補地の特性などを調べております。真ん中には各候補地の特性と周辺の状況ということで、具体的には、交通の利便性、周辺への影響、周辺の駐車場の状況、用地の拡張性などを○△等を使いまして表記をさせていただいております。中段から下のところに黒い太線がありますが、そちらから下の段でございます。こちらには、建物本体以外に予想される施設の整備費、それから今回新たに、現在ご利用されている皆さま方との調整をさせてもらった結果もお示しをさせてもらっております。こちらの方には、その要望の内容と概算の経費ということで表をまとめてございます。候補地ごとに作図をさせていただきます。平面配置図の作図の条件として確認をさせていただきます。今回の作図につきましては、建設候補地を議論をするための資料ということでございますので、施設の中身がどうのこうのということではないということでございます。具体的に①番目、当然のことでございますが関係法令の遵守、②番目、建物自体の建設コストは考慮はしていないということです。③番目、どこの候補地につきましても敷地内に 200 台の駐車場を確保するというので整理をさせてもらってございます。なお、こちらの 200 台という数字でございますが、前回の会議からも説明させていただいておりますが、施設の規模が 500 席程度になった時の全国の類似施設の状況から参考にした 200 台の数字でございます。したがって、議事の 1 番目で規模が確定してきておりますので、この辺も合わせてご議論の参考にしていただければと思います。④番目ですが、施設は一体型という形で議事の 1 番でございました。客席パターンの B パターンを使ってございます。この B パターンが客席パターンでは一番広いパターンになりますので、こちらを参考に作図をさせていただきます。⑤番目です。敷地の拡張性、場所によっては有り無しが書いてございますが考慮はされておりません、といった条件で作図をさせていただきます。

簡単に 1 候補地ずつ説明をさせていただきます。始めに高田駅前でございます。こちらでお話をさせていただくのは、敷地の拡張性、それから表にあります黒線から下の部分、コストの部分、ということで、項目とどの部分になるのかといった部分を映して説明させていただきます。用地の拡張性があるといったところでございます。JR の右側になります。ここに建設された場合、騒音や振動の対策が掛かってくるといった場合であります。こちらでは、200 台を確保するためには立体駐車場となる、といった整備条件となります。それから敷地の前面に面している道路の拡幅整理が必要になるのではないかと、という考え方がされております。それから、現在ご利用されている皆様方の協議の結果、ご要望が出されている案件ということで整理をさせていただいております。現在も駐車スペースとしてご利用されておりますので、駐車スペースを確保して欲しいという要望が出ております。続きまして、高田公民館、幼稚園を含む敷地でございます。こちらの方につきましても、

南側の用地、拡張が若干ですがあるといったところでございます。2 番目、敷地の前面道路の拡張整理、それから現在の利用者からの要望ということで、こちらは幼稚園の移設の問題があがってくるということでございます。3 番目のソフトボール球場でございます。こちらにつきましては、遺跡の発掘調査ということで、建物敷地には遺跡調査が必要になってくるのではないかとといったことが予想されています。それからガレキの処理ですが、旧外堀用地の埋め立て時に発生をしておりますゴミ処理といった部分のお話をいただいておりますので、これらに掛かる経費が想定されるといったところでございます。現在のご利用の団体からの要望としましては、ソフトボール球場の移設といった課題が挙げられています。それから、本日追加でお示しをさせていただきました、西城 2 丁目、附属小学校西側になります。こちらは用地の拡張性があるといったところでございます。200 台の駐車場を確保するためには立体駐車場になるといったところでございます。敷地の南側の道路になりますが、前面道路の拡張整理が必要になってくるといったところでございます。最後に高田公園プール跡地でございます。こちらにつきましても、建物部分の遺跡の発掘調査が必要になってくるところでございます。200 台を確保するためには、平面駐車場とは別に立体駐車場が必要になってしまうというところでございます。それから図書館脇からの入り口の道路の整備が必要になってくるというところでまとめさせていただいております。なお、敷地の中で 200 台を確保するといった条件で作図をしておりましたが、高田地区公民館、こちらにつきましては 200 台を確保することはできませんでした。いろいろ法規制等もございまして、今回の作図は平面のみを 100 台程度の作図になっております。その他につきましては、平面プラス立体駐車場の作図をさせていただきまして、200 台を確保する図となっております。以上簡単ですが、説明を終わります。

(赤羽委員長)

どうもありがとうございました。前回、第 3 回目で 7 候補地を 3 つのグループに分けて、それぞれのグループから 1 つということで 3 候補地に絞られました。今日は西城 2 丁目、プール跡地も復活させて、5 つの候補地の説明がありました。あらゆる可能性を検討して議論したいと思っております。柔軟に検討していただきたいと思っております。ただいまの説明につきまして、何かご質問ご意見等がありましたらお願い致します。まず候補地における課題の整理から、今後絞り込みを進めていくための議論をお願いするのですが、今回欠席された熊田委員から事前に意見をいただいているのでしょうか。もしありましたらご報告いただきたいと思います。

(事務局 松井主任)

この件につきましては、意見は頂戴しておりません。

(赤羽委員長)

他にいかがでしょうか。樋口委員どうぞ。

(樋口委員)

議論の参考に教えていただきたいのですが、最初の委員会の時に、予算規模ということ

をお聞きしましたが、今回駐車場が立体駐車場となるということで金額が出ておりましたが、この予算規模というのは当初聞いておった予算の中に含まれるのでしょうか。別で考えればよろしいのでしょうか。それとも、もしも駐車場の料金などで、先ほど田中委員のほうでも予算のお話ありましたので、若干説明いただければと思います。

（事務局 小林都市整備部長）

当初、庁内検討委員会の検討結果として 500 席程度で公民館とホールを合築するという事で、3000 m²位を想定し、今回の建築費のみで 11 億、そのほか外溝とかプラスで必要ですよということでお示しをさせていただいておりますが、その中には立体駐車場は含まれておりません。立体駐車場になればプラスアルファという形になるかと思われれます。ここの 2 番で建設自体の建設コストはこうですね、と表現としては分かりづらいかと思いますが、これはあくまでも敷地に入る形で、高くなるからやめたという話ではなくて、例えば駅前ですと、敷地の関係で立体ということになります。建設コストは高いけれども、ビルタイプで今考えております、という趣旨でありますので、高くても良いという趣旨で描いてある訳ではないので、ちょっと誤解を生む表現になっておりますが、その辺ご理解をお願いします。

（赤羽委員長）

今回、図面が出てきましたが、これを見まして特徴的なものは全て一体型だということで、分棟型は無いということですね。アプローチとしてロビーを共有しているということでもあります。もう 1 つは敷地面積の関係で、高田駅前のタイプはかなりコンパクトに圧縮されていて、下が公民館、上がホールということですね。ビルのようにしてしまうということですね。駐車場も立体式です。これに近いものが追加資料の西城 2 丁目ですね。こちら敷地が狭い関係でコンパクトであり、駐車場も立体式になっています。そんな違いがあるということです。それでは、ご意見伺いたいと思います。建築場所についてはかなり重要な案件だと思います。それでは、お一人 2 分程度で重要だと思うポイントをお話していただいて、候補地に相応しいものについて、ご意見を伺えればと思います。樋口委員からお願いします。

（樋口委員）

私、都市計画や建築を専門としておりますのでその視点からお話をさせていただきたいと思います。私がお話するポイントと致しましては、まず新しい建物がここに作られるのだということ、人が集まる場所なんだということ、そして、その施設を中心として街全体を考えたいなと私は考えます。合築であることを利用して複合利用というものをぜひ地域全体を波及効果までもたらすことができれば、市民の皆さん全体にとって良いことではないのかと思います。先ほど清水委員のお話にもありましたが、差別化を図ることが重要だと言われました。他の場所が車を利用した場合が前提となっていますので、立地で差別化することも重要ではないかと思いました。また田中委員の方から新しい方向性を示すのだということで青少年が利用出来るようにして欲しいというようなお話がありましたので、青少年も利用できる場所、また赤羽委員長から公民館で利用されているものを展示して、

皆が見れるような工夫も必要なのではないかと言われました。そういうものを全部考えますと、やはり皆の集まりやすい、駅前の立地が都市計画の関係の視点からも言いますと重要なのではないかと思います。若干、道路拡幅というのは前提になっておりましたので、その部分が気になっていましたが、敷地の拡張可能性というところで、赤い点線で囲まれた部分がありました。ぜひ、その敷地を含めて検討していただければと思いますし、道路がかなり拡幅する部分が建物に被っておりますが、建築で考えますと、上部に建築空間をせり出して一階部分を雁木のように使うことによって、歩道部分は敷地側に取り込むことが可能だと思います。青点線まで全部道路を拡幅するのではなく、若干建築的な処理で雨が降っても、その敷地内部を通りながら、赤羽委員長も言われたように、その中を歩きながら見ていく。また、高校生達もたくさん通りますので、公民館でどんな活動をしているのかを見ながら駅まで行く。そんな賑わいをもたせられるような空間になるのではないかと考えたことを考えました。また駅前ですので、周りにホテルや飲食等もたくさんあります。また、ここは東西自由通路という話もあります。駅の西側の人達も自由通路を使って、もしかしたら立体駐車場もありますが、そのまま濡れずに公民館とかホールの部分も使えると思います。バスルートについては、資料の中には本数としか書いてなかったのですが、ルート図を見ましても、広域からバスを使って来られるのは良い機会かなと思いました。以上です。

(甲田委員)

今、樋口委員からお話があったこととちょっと重なるところもありますが、私も前回の会議まではソフトボール球場が良いかなと思っていましたが、市民の方から駅の方でと言う嘆願書が出ていることを聞いたり、今日の資料を見させていただいて、やはり駅前に建てるのが一番適しているのかなと思いました。ただ、1つ周辺道路が狭いということがありますので、その辺、確実に整備が出来るのか。それと、用地の拡張の可能性ということでJRの交渉が可能と書いてありますが、その下にJR用地を取得できなければ拡張は不可能と書いてありますが、これは実際不可能となる可能性もあるということを書いてあるのでしょうか。その辺教えていただきたいと思います。

(事務局 奥田課長)

JRさんとはまだ実際に交渉はしておりません。こちらの現在の段階での見込みです。

(甲田委員)

まだ可能というのは100%ではないということですね。

(事務局 奥田課長)

その辺はまだです。

(甲田委員)

やはり、もしこちらでということになった段階で、道路の整備というのは建てる以前に、そこが一番大事な部分かなと思うので、ぜひ、その辺は頑張ってくださいと思います。

(赤羽委員長)

最初から1か所に絞っての意見ですね。2番目の候補地としてはどうでしょうか。

(甲田委員)

高田公民館について、下の備考を読ませていただくと、工事のための仮設の公民館を見込まないと書いてありましたので、工事期間中、今まで使われていた方達が使えなくなるということを考えると、私の意見から言わせていただくと、利用できなくなるということを見ると、何かと障害が出てくると思いますし、どちらかと言うとソフトボール球場の方が良いのかなと感じました。

(田中昭平委員)

どこが良いという決定的な意見はありませんけれども、各関係団体等からの請願が課長さんから報告ありましたが、これの対応、回答しなければなりませんね。もう1つは、ここは大変だなと住んでいてと思いますが、高齢化社会、在来線利用、バスの発着点、青少年の主体的な中、高校生が集まりやすい。しかも新幹線も長い目でみると駅前が良いように思いますが、でも自然に囲まれて駐車場に余裕もありそして自家用車も発達していますし、そういう場所が良いと思います。ただ今は、どこと言う意見は出せません。ただ、駅前、中心街が請願出ていますので、その辺どう対応するのでしょうか。はっきりした意見はありません、感想です。

(赤羽委員長)

駅前地区と高田公園地区の、この両者の綱引き状態なのでしょうか。

(田中昭平委員)

はっきりとは言えません。

(赤羽委員長)

場所の問題は実は大事ですね。それが建物の形を規定して言っていると言いますか、一番大事な問題が実は最後にあるということです。続きまして渡邊委員お願いします。

(渡邊委員)

観光地から見た場合、ソフトボール球場の可能性的には作りにしても良いのかなと思いますが、追加資料の西城2丁目の所は、何度も通ってみましたが、木がシンボルとして良いのかなと思いました。今、本町5丁目で作っている市の公益施設が駅前にあるので、駅周辺の活性化等を考えても公共バス、電車等使うにしても、西城2丁目だと良いのかなと思いつつある場所です。ただ、3候補地の中であれば公民館周辺地図を見ると高田の街中に集まっているので、お花見など観光客等、他のことを考えると高田公園の方が良いのかなと思います。あと、ここは、北城高校、高田高校、小中学校もあり、図書館も利用していると思いますが、子供も来やすいと思います。現に直江津交流館は1階に高校生が集ま

り、トランプやアイパッドをしたりしていますし、市民プラザはお母さん方が子供連れで集まって、パンフレットをもらったり暇つぶしできる空間が出来ていると思いますので、そういうことを考えれば高田のソフトボール球場か例外として西城 2 丁目が良いのかなと感じます。

(田中弘邦委員)

2 つ追加になっていますが、結論的に、今いろいろ委員の皆さんから話があったのですが、やはり、今の公民館、駅前が常識的に考えて、たくさん人が集まる所というのは、道路が整備されていないと、パニック状態になってしまいます。だから、そういう面から見ると、非常に危険度はあるし、常識的な見解から考えますと、公民館というのは景観も大事なことで、ただ建物の中に作れば良いということではなくて、周囲の景観というものを考えると、私は公園の中が一番良いと思います。ただソフトボール球場の方はいかがかなと思いますが、ここにも書いてありますが、遺跡やガレキのことがあり何が埋まっているのか分からないということですね。観光的な面を考えると、そこの使い道はあるし、そうすると、プール跡地が良いのかなと思います。図書館もあるし公園も歩けるし、景観もある程度眺められるし、私は常識的な見解から、たくさんの人が入り出て、安全で快適で散歩もでき、そういう面では、私はそんな狭苦しいところではなく、はっきりしない、駅前道路の拡幅も専門的にだいたい無理ですね。拡幅しても金を使うだけですからね。金は財政的に掛けられない訳ですしね。そういうものは、新しい街づくりの関係で、補助金を持ってきて投入して、金を掛けないでできると思っていること自体大間違いで、そんな簡単なものではないですし、やはりそういったものは周囲の環境とか雰囲気的大事にしなければならぬですね。私はそんな考え方です。

(赤羽委員長)

やはり高田の歴史文化、風土のシンボルの高田公園が良いということですね。それでは清水委員お願いします。

(清水委員)

私もソフトボール球場のところが一番良いのかなと思います、駐車場も含めて建物の位置や広場というのは、ソフトボールの関係で残そうと思っているのでしようけれども、この辺をやめていただいて、観桜会のときに駐車場として使えるのかなと思います。

駅前も良いと思いますが、建設コストの部分で3倍以上掛かるのではないかと思います。立体駐車場も必要ですね。拡幅や何か云々含めると緩和しない状態で、前回の座高円寺のところは JR 線に近く移動式の椅子だと思いましたが。貨物列車が通った時による振動もあると思いますし、多分、鉄骨構造になると思いますが。それが例えば 2 層、3 層で 4 階建て位の建物になりますと、建設コストの面ですと、フラットの建物から比べると 3~4 倍以上掛かるのではないかと思います。具体的に数字の換算はさておき、駅前ですと、かなり建設コストは掛かると思います。ソフトボール球場は個人的意見ですので、敷地も含めて駐車場のスペースも問題ないですし、建物も比較的で低床で出来るのではないかと思います。また街の中は用地の買収とかもありますので、なかなか拡幅ということになりますと、都

市計画の中では道路の拡張工事や立ち退き等ややこしい問題がいろいろでできますのでそんなに簡単にクリアできないのかなと思います。事業計画もあるでしょうし5年とかの単位で計画している部分もあるでしょうし、交通経済学とかもあるでしょうし、用地の買収はなかなか難しいのではないかと思います。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。最後に秋山副委員長お願いします。

(秋山副委員長)

私がこの委員会に関わって資料を見せていただいた中では、高田駅前を請願が出る前から推したいなと思っていました。コストのこと等一番条件が悪く大変だろうなというところをあえて自分は選びたいなと思ったのは、やはり将来性です。新幹線からの人の流れ、公共交通の利便、高校生や青少年等の人の流れ、人のたまる場所が高田駅周辺に欲しいなという気持ちがありました。自分が高校に通っている時からありました。あと、寺町を観光資源として使っていくのに、やはり何か留まれる場所が欲しいなというのがありましたので、そういう意味で、今回をこの公民館、ホールをどうしてもそこに充てなければいけないかという、まあ別のものがあれば良いのかなとも思いますけれども、ちょうど、こういう施設の計画があったものですから、こういう機能のものが欲しいという意味では、どんな困難を乗り越えてでも作って欲しいという希望がありました。それを置いといて、では次はと言われると、それは多分いろいろな条件がクリアできるという面から考えたら、ソフトボール球場が良いだろうなと思います。ただ、将来的に見て今の県の指定を国の指定に持って行って、広い意味で新幹線からの集客をとということでシンボルとできるのは高田駅と春日山駅と聞いております時に、高田城の城跡のエリアなので、何か違う活用ができるのではないかなという思いがありまして、できればハードなものは作らないでおいた方が良いのかなという気がしています。3番目の候補地はというと、西城のあの場所に立体駐車場を作って道路を拡幅してということができれば、そこが3番目かなと思っております。以上です。

(赤羽委員長)

各委員の意見でありましたが、3回の中から揺れている感じがありますが。私の意見ですが、人倫学で都市を捉えた場合、都市の中に昼の街と夜の街があり、飲食や商業の街と、住宅、官公庁の昼の部分、私的な空間と公的な空間、こういう公的施設で夜の街がどうも気に掛かるのですね。ホールの部分について、そういう機能は、高田地区からだけ人を集めるのではなく、上越一円から集める、こういうものはやはりシンボリックな空間が良いなと私は思います。今日は集約しなければならぬのであります。みなさんの意見を伺って、また更に絞り込んでいかなければと思います。事務局の方から更に付け足すことがあればお願いします。

(事務局 奥田課長)

事務局としては、この他にということはありません。今回2か所の場所を追加させて

いただいたのは、資料を作成する上で、いろいろ条件を整理しながら、やはり 3 か所については課題が多いので、あと 2 か所も追加をさせていただきました。

(赤羽委員長)

それでは、次回の会議に意見を集約したいと思います、そのために、新たな資料、こういった資料が欲しいということであればおっしゃって下さい。

(秋山副委員長)

県のほうで公共事業の再評価をさせていただいている時に、道路やそういうハードなものを B/C といった数字をいろいろ出してくると思いますが、将来性のところで、積算する基準があるみたいなところを資料で見せていただくのですが、こういう 11 億円位の建物というのはないのですか。

(事務局 小林都市整備部長)

箱ものについてはそういう定まったものは多分無いと思います。

(秋山副委員長)

将来性というものがここまでしかでていないので、どの位の人の流れを予測するとか等何か専門家の方にできないのでしょうか。

(赤羽委員長)

私もある委員で細分化はやりましたが数値は上がっておりましたが、あまりよく分からないのです。

(秋山副委員長)

将来のプラスとして、マイナスとして想定されるものなどあれば。

(事務局 小林都市整備部長)

例えば中心市街地の活性化に寄与するみたいな話は定数的な部分では表現をさせていただいています。駅前であれば当然中心市街地活性化の部分であれば定量的な部分は数字ではお示しできませんが、定数的であれば他の候補地よりは中心市街地の活性化に寄与することが出来るといったことや、高田公園に立地するとなれば公園全体の魅力向上になるだろうとかということは示すことはできると思いますが、定量的に数字としてとなるとなかなか難しいかと思われま。

(秋山副委員長)

定量的でなくて良いのです。もうちょっと周辺含めたものが数字としてあればと思います。

(事務局 小林都市整備部長)

現実はなかなか使われないといいますが、直江津の学びの交流館の駐車場の問題についても、ちょっと駐車場が離れると、駐車場そのものは近くにないご利用されないということがあります。

(赤羽委員長)

橋、道路、用排水路は費用対効果の数字が出てくると思いますが、文化施設の場合には少し難しいところがありますね。

(事務局 小林都市整備部長)

利用者数は立地、場所によって変わると出すのは難しいと思います。高田公園に作っただけから、利用者がこの位増えます、駅前だから増えるというように定量的に出すのは難しいです。なかなか差は出てこないのではないかと思います。

(赤羽委員長)

時間もありますので、次の飲食機能についてです。これは建設場所の候補地と密接な関係があるのですが、候補地が絞り込まれた後に議論するというところでよろしいでしょうか。近くに食堂やレストランがあるところもあれば、ないところもあります。続きまして議事の4番目ですが、事務局より説明をお願い致します。

(事務局 北島係長)

前回3回目の会議の中で、子育て機能についてご議論いただきました。長岡に今現在ございます、ぐんぐんやてくてく等、子育て施設がございますが、このような託児施設や保育機能まで含めた施設を建設することによってお母さん方からそこに行きたいといった機能を含めることで、施設を活用していただけるのではないかとというような議論でございました。私どもは今まで庁内検討委員会の中で子育て施設に関しては充足しており、一定の規模はあるということで一時預かり機能があればいいのではないかと議論をしてまいりましたが、前回の皆さま方からの建設的なご意見を受けまして、今現在市民プラザにありますこどもセンターを所管しておりますこども課と保育課等で2月24日に第1回目の子育て施設の検討を開始させていただきました。スクリーンをご覧ください。検討の内容は、1回目として、こども課、保育課の課長を含めて係長クラスで検討しておりましたが、2回目3回目ということでワーキンググループを作りました。一時預かりや一時保育、子供センターやこども広場、今現在市内にある施設の利用状況も検討しながら、現在3回目の検討を行ってきたところでございます。本来であれば検討の内容をまとめて報告をさせていただく予定でございましたが、第5回目の委員会で担当課の職員も出席させていただいて、検討内容についてご報告をさせていただきたいと考えております。

(赤羽委員長)

このスペースについて何かご意見があればお願いいたします。子育て施設については、引き続き庁内の検討委員会のほうで検討していただき示していただくということです。

(事務局 小林都市整備部長)

先ほどの建設候補地を絞り込んでいただくということで、我々の方でどういうデータや資料を用意したら良いのかということをもう少しご意見をいただくと大変ありがたいなと思います。今、私どもの方で考えておりますのは建設コスト、例えば駅前であればどの位のコストが掛かるのか その辺数字が出れば良いのかな。あと JR の意見も少し聞いてみなければと思っております。そのほか何かありましたらお伺いしたいと思います。

(赤羽委員長)

どのようなデータに基づいてどのように絞り込んでいくかと。第3回目の委員会で選別の仕方やフィルターについて議論があったと思いますが、規模や面積、高田地区の中での交通ルート、バス路線、人口密度、駅前といった交通の便が良いところが良いか、シンボリックな高田城の位置が良いのか、建設費用が少なければそれで良いのか、掛かっても良いのかという問題もある。ひとが集まれば良いのか、でも繁華街も良いのか、文化施設なら景観的なものも必要なのではないかな等。ですからその辺の判断の基準を整理して絞り込んでいただきたいと思います。ただ私が思うのは、10人の委員で決めて良いのか。市長は厚生南会館と同じような機能を持つことを公約で言われた。そこも大事だなと思います。駅前に作ってそれが満たされることのできるのかということをお私は思います。この件につきまして大事なところでありますのでいかがでしょうか。

(甲田委員)

建てる場所については重要なことですが、その場所の近隣の道路のことで、常に渋滞が発生している場所があるとか、そこへ行くまでの道路が常に渋滞しているのがあるのでしたら、選択していく上で何か参考になるのかなと思います。高田の駅前あたりは、時間帯や曜日によって違いがありますので、日頃の渋滞と新しく建設した場所にくる人達との渋滞の関係が分かれば良いなと思います。

(田中昭平委員)

諸条件の問題の資料であるが、まだこれだけのものを見ているだけでは、これだというのが出てこないです。

(事務局 阿部副課長)

具体的に次回の検討委員会の時に、その候補地にした場合、どこから入ってきてどこに出るのか、一方通行がある場所もありますので、そのアクセスでどんな感じになるのかといったものも作成したいと思います。そのルートや渋滞状況もお示しできればと思います。今、資料を作成中ですが、幹線道路から来る時の信号の数とかといった資料も用意できればと思っています。次回そういうような細かいデータを出すということになってくると例えば今日提示をさせていただいたのは、絞った3か所と、追加で2か所をさせてもらったのですが、5か所全部それをするのか、もし絞っていただければ詳しく検討のできるのかなと思います。

(田中弘邦委員)

あまり手数ばかり掛けてするのもいかなものかと思いますが、駅前だけではなくて公園のところもガレキがどうなのかとか、その辺の詳しい調査を出してもらいたいですね。

(田中昭平委員)

ソフトボール球場についてこの経緯がどうなのか。高田駅についてもこの嘆願書についてどうするか。

(赤羽委員長)

これまでの上越市は雁木通りプラザ、今現在作っている公益施設、高田小町など市街地活性化のためにかなり努力してきました。本町の効果があるのかないのか。

(樋口委員)

効果があるのかという観点ではないような気がします。先ほど時間が足りなかったので少し付け加えますが、我々委員が選ばれて真剣に市民の代弁をしながら意見をしている、そういう観点から言いますと、中心市街地の活性から考えるのではなく、いろんな人が入りやすいか、周りがどのように変化していくのか、皆さん考えて活性化の視点でこれがあるのだと思っています。皆さん車のことも心配されたりもしますが、バスがなくなったりします。皆さん駐車場を心配されていますが、どこの地域に行っても駐車場の問題が出てきます。一方でバスの乗車率もどんどん減ってきて税金をつぎ込んでもバスがなくなるということも考えられ、困っている町もたくさんあります。できればこういう施設を使う時に車を使うのではなく、例えば今日はご飯を食べて帰ろうかとか、少しお酒を嗜むことがあればタクシーで帰ろうか、ということになれば経済効果があると思いますし、これが郊外に作って車で行ってしまうとこれができません。どうしても郊外ですから代行で帰ることになりますが、これはちょっと違った効果になってしまいます。長岡の中心に厚生会館というのがありました。今、ここに市役所をもってくることになったのですが、前はそこにあった体育館も外にもっていき、コンサートホールの機能も外にもっていった。どんどん公的施設をもっていったら真ん中がすかすかになってしまった。今回も、それぞれを外に出してしまうと青少年がそこに行きたくてもそこに行けなくなってしまいます。そこに行くには、お父さんやお母さんに送ってもらわなければ行くことができないという状況を作ってしまったので、それを反省として作っていきたいですね。

(赤羽委員長)

コンパクトシティの理念ですね。上越の場合は関川の東側あるいは高田と直江津の間、春日山地区に飛び出していったのですよね。高田公園はその距離ではないのですよね。やはり高田の街の近く、しかもシンボリックなところである。高田の商店街はもともと城下町の商業地、ですから、それほど外に飛び出したところではない場所ですね。やはり、議論を聞くと、高田駅前と高田公園地区ですね、ここを徹底的にプラスマイナスをリストアップしていただいて、地価から交通量、歩行者量の全てをして、客観的に判断したいなと思います。そういうデータを次回お願いしたいなと思います。

(清水委員)

資料集めは非常に大変と思います。例えば、JR 高田駅に乗降客数は一日 3000 人、直江津駅 3300 人です。通勤客は学生が 7 割、朝 1500 人の人が乗って、帰りに 1400 人が戻ってくるという計算です。あとは普通の旅行客です。JR 東日本の統計資料から抜粋したものです。多分 JR だけに関して見てみても、例えば休日の利用者とかの推移表で、乗降客数何人降りたとかその施設を利用するかとか動線があると思うのです。当然、街の中を歩いていて中途半端だなと思ったことは、雁木通りプラザや高田小町など 6 つも 7 つも施設がありますが、利用率が悪いなと思い、駅の中に行くのに車で行くのです。人口活発地区、例えば春日地区や春日新田地区に住んでいると子どもは、そこまで親に送ってもらわなければ行けない。高田の町にはもう人が住んでいないドーナツ化現象が起こっている。そういう意味では人口の分布図も必要なのかなと思います。そういうものは、抜粋して細かい資料を揃えられるか疑問かなと思います。建設コストの概略を出してということになるとややこしいことになります。どの程度のもが揃えられるか分かりませんが私どもが検討する段階で細かく出していただいて資料が出た中で総合的に判断するしかないのかなと思います。

(事務局 奥田課長)

今ほどの資料のことで次回にどのような資料が必要かということをご意見いただきましたので、今の候補地、結果的には今日は前回 3 つに比べて 2 つの候補地にも含めて議論していただいたということでございます。今後、議論する上で、各委員の意見を聞いてみますと、5 つの候補地の中で高田公民館のところは候補にされる意見が少なかったです。それで資料作成の提案として、高田公民館をはずして 5 つの候補地のうち高田駅前、ソフトボール球場、西城 2 丁目、高田公園プール跡地の 4 つの候補地とした方向での資料作成としたいと思いますがよろしいでしょうか。

(赤羽委員長)

可能性として良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

(田中昭平委員)

候補地を 2 つから 4 つにしたのですか。

(事務局 奥田課長)

今日の議論は 5 つの候補地で 3 つで絞っていただいて、2 つを追加して議論をしていただきました。5 つが並んだ中で高田公民館は皆さんが押される意見は少なかったですので、それを除いて 4 つの高田駅前、西城 2 丁目、ソフトボール球場、高田公園プール跡地として、ご要望のあったデータとしてつなげたいところまで、あるいは皆さんの判断をしていただくもの、どんなまとめ方が良いのか考えなくてはいけないと思いますが、その辺を考慮して 4 つの候補地のデータをお出ししていくということでございます。

(赤羽委員長)

ただ1つ我々が言えるのは市長の答申を受けて我々は議論をしている訳で最終的な判断は我々ではないですね。最終的な決定ではないですね。

(秋山副委員長)

前回の会議が終了してからは外に向けては、3つの候補地が絞られた場所も出ていて、今回2つの候補地が浮上した理由がはっきり分からなく、また4つというのも、その辺の外から委員会を見ていた場合、不自然な感じがするので、3つ選らんで、今回1つ落ちて2つというのは、流れは分かるのですが、その浮上した流れを説明をきちんとしなければならぬかと思いますが、いかがでしょうか。

(赤羽委員長)

事務局いかがでしょうか。可能性が全くないという訳ではないのでしょうかね。

(秋山副委員長)

前回あれだけ議論して、報道にも3つに絞ったということが出た訳ですが、それがどうしてでしょうか。

(事務局 阿部副課長)

前回の会議では3つに絞ってもらって、報道にも書かれたとおり有力な3つの候補地ということで表現をさせていただいております。今回、2つが追加になったのは、3つに絞った候補地をもう少し詳細に検討しましょうということだったのかなと思います。そしてそれは私どものほうで詳細に検討させていただきました。詳細に検討させてもらったところ、いろいろ建設コスト以外に掛かる費用とか、例えば公民館のところだと幼稚園の問題だとか大きな問題が出てきたところが2つあった。ですから、今回検討してもらったなかで大きな問題が出てくると3つの候補地の中で競争する場合、落ちてしまう可能性がある。大きな問題が出たところの候補地に対して、私どものほうから提案させていただいた経緯です。それで私どもの方は、その5か所の中で議論をしていただいて、その中で検討委員の方々から候補の意見を聞いたところ、候補として出てこなかったところは高田公民館でそこを落としたという整理でどうでしょうか。

(秋山副委員長)

前回の会議のところでは、高田公園プールの跡地のところはどなたも推していなかったと思いますが。

(事務局 小林都市整備部長)

前回はブロックで分けて高田公園で考えた場合、ソフトボール球場は出てきたのですが、ソフトボールに課題もでてきたので、そのブロックでナンバー2を考えるとプール跡地だろうと。公民館を考えた時にも課題もあったので、近くの西城になったのです。参考までに。幅広く知っていただきたいという意味も含めて。市としては、そこにしたいという意味は全くありませんので。

(田中昭平委員)

今回は1つに絞るということですね。

(赤羽委員長)

先ほども言いましたが我々が市長に諮問するという事なんですね。それでは、以上をもちまして議事を全て終了いたします。次回の会議につきまして事務局の方から説明をお願い致します。

(事務局 奥田課長)

次回の会議につきまして日程表を提出していただき調整させていただいた結果、4月20日(金)午前9時から、市役所の4階401会議室で開催いたしますのでよろしくお願い致します。また今回の会議録につきましては市のホームページで公表いたしますし、また次回の会議の時にはお渡ししますのでよろしくお願い致します。以上をもちまして本日の会議を終了いたしたいと思っております。

(事務局 小林都市整備部長)

本日はお忙しい中、活発なご議論をいただきまして誠にありがとうございました。また長時間に渡りご議論をいただきありがとうございます。本日の会議で4回となりますが、少しずつ厚生産業会館の具体的なイメージが出てきたかなと思っております。ついては、だんだんと夢が膨らんできているのかなと思っております。次回以降そのイメージが固まるようにご議論をいただければと思います。大変長時間に渡りましてご議論いただきまして誠にありがとうございました。

8 問合せ先

都市整備部都市整備課公園管理係

TEL : 025-526-5111 (内線 1379)

E-mail : toshiseibi@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。